

# 「令和2年度 岡山県学力・学習状況調査結果」の概要について

## 1 岡山県学力・学習状況調査の実施状況

### (1) 調査の目的

個々の児童生徒の学力・学習状況を全国比較及び経年比較することにより、教育指導や教育施策の改善を図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策の臨時休業等の影響を鑑み、実施日等を変更した上で、児童生徒、一人一人の学習の状況を把握し、今後の学力保障や学習指導に生かす。

### (2) 学力調査の実施期間 令和2年6月22日（月）～8月31日（月）の間

### (3) 実施校数・児童生徒数等

	小学校			中学校	
	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
受検校数	285校	289校	290校	119校	120校
県内受検者数	9766名	9856名	9901名	10044名	9756名
全国受検者数	約5万人	約6万人	約6万人	約6万人	約6万人
実施教科等	国語、算数	国語、算数	国語、算数 質問紙	国語、数学 質問紙	国語、数学、英語 質問紙

※新型コロナウイルス感染症の影響により、全国受検者数は例年に比べ、減少している。

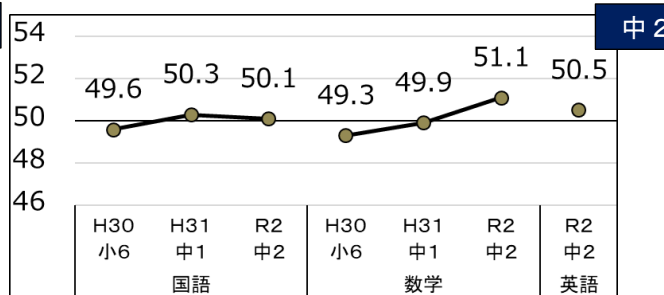
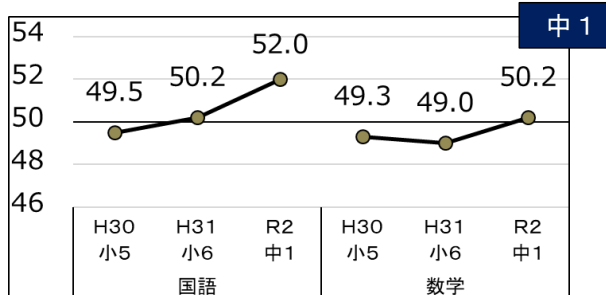
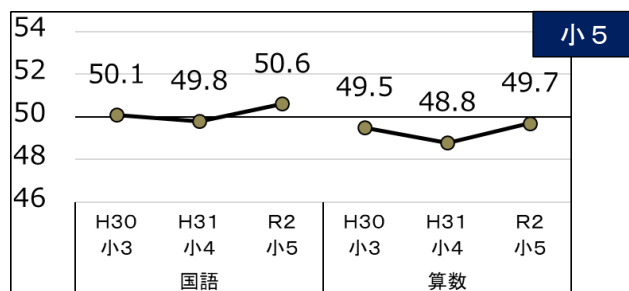
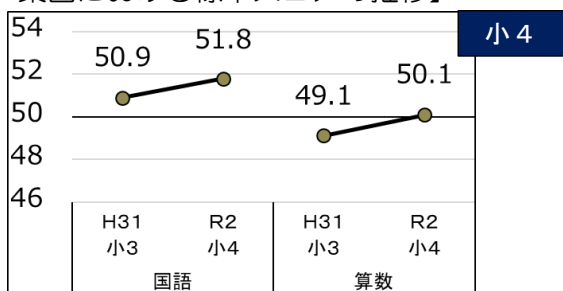
## 2 学力調査の結果

※本調査では、全国における平均正答率を50としたときの換算値（以下「標準スコア」とする。）を用いる。

### 【標準スコア】

	学年	国語			算数・数学			英語		
		H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
小学校	3年	50.1	50.9	51.6	49.5	49.1	51.6			
	4年	49.5	49.8	51.8	49.1	48.8	50.1			
	5年	49.5	49.0	50.6	49.3	49.1	49.7			
中学校	1年	49.8	50.3	52.0	49.8	49.9	50.2			
	2年	50.9	51.0	50.1	52.1	51.2	51.1	51.2	48.6	50.5

### 【同一集団における標準スコアの推移】



- ・小学校では、5年生の算数を除いて全国値を上回った。【同一集団における標準スコアの推移】は、全教科、全学年において前年度より上昇している。
- ・中学校では、全学年、全教科において全国値を上回った。【同一集団における標準スコアの推移】は、2年生の国語を除いて上昇している。

### 3 学習状況調査の結果

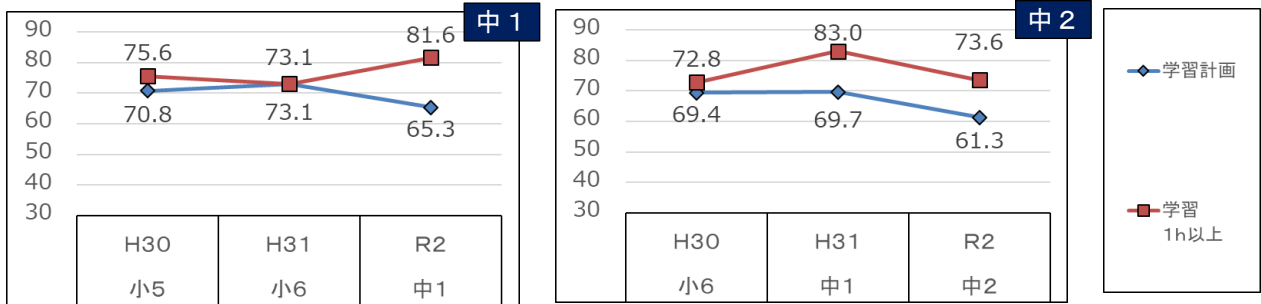
#### ○学習習慣

- ① 自分で計画を立てて勉強をしていた。(学習計画)  
 ② 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていましたか。(学習1h以上)

【年度毎の肯定的回答割合〔単位：％〕】

	学年	① 学習計画			② 学習1h以上		
		H30	H31	R2	H30	H31	R2
小学校	5年	70.8	71.9	▲ 69.7	75.6	74.2	▲ 77.2
中学校	1年	66.2	69.7	▲ 65.3	82.1	83.0	▲ 81.6
	2年	56.4	59.1	▲ 61.3	71.0	74.4	▲ 73.6

【同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕】



- ・【年度毎の肯定的回答割合】は、昨年度に比べ、中学校2年生の「学習計画」と小学校5年生の「学習1h以上」を除いて、肯定的回答割合が減少している。
- ・【同一集団における肯定的回答割合の推移】でも、中学校1年生の「学習1h以上」を除いて減少している。

#### ○授業理解

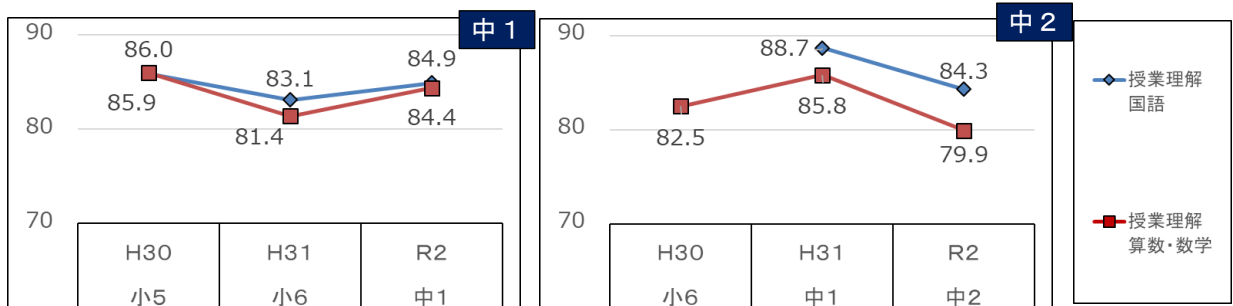
- ③ 国語の授業の内容はよく分かる。(国語の授業理解)  
 ④ 算数・数学の授業の内容はよく分かる。(算数・数学の授業理解)

【年度毎の肯定的回答割合〔単位：％〕】

	学年	③ 国語の授業理解			④ 算数・数学の授業理解		
		H30	H31	R2	H30	H31	R2
小学校	5年	85.9	86.6	▲ 84.3	86.0	86.2	▲ 83.2
中学校	1年	83.5	88.7	▲ 84.9	84.3	85.8	▲ 84.4
	2年	84.6	86.0	▲ 84.3	76.4	77.1	▲ 79.9

【同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕】

※中2のグラフのH30の小6は、全国学力・学習状況調査に質問項目がなかったため、数値が入っていない。



- ・【年度毎の肯定的回答割合】は、昨年度に比べ、中学校2年生の数学を除いて、肯定的回答割合が減少している。
- ・【同一集団における肯定的回答割合の推移】では、中学校1年生は増加しているが、中学校2年生は減少している。

## 4 設問から見える成果と課題

### 小学校国語

#### 【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
3	7	指定された長さで文章を書くことができる。	77.4	67.6	9.8
4	7	理由や事例を挙げて文章を書くことができる。	68.1	57.1	11.0
5	7	自分の意見を明らかにして文章を書くことができる。	64.6	57.9	6.7

#### 【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
3	2 (2) ②	第2学年配当漢字を書くことができる。	49.3	44.5	4.8
4	3 (2)	ローマ字のつづりを理解している。	47.2	48.9	-1.7
5	1 (3)	司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることができる。	47.3	46.6	0.7

- 複数の条件に従って文章を書く設問の正答率が全国を上回ったことから、各学校で課題意識をもって書かせる指導に取り組んできた成果が表れたと考えられる。引き続き各教科等で、文章や図、表、グラフ等から読み取ったことを踏まえて書く活動に取り組むことが効果的である。一方で、無解答もあったことから、授業の中で、「途中まででもよいから書く」ことを促し、完全ではなくても文字で自分の考えを表現する児童を育成することが求められる。
- 3年生や5年生では、半数以上の児童が正しく書くことができない漢字が見られた。当該学年までに学んだ漢字の読み書きについて、復習する機会を設けるなど、定着を図る取組が求められる。
- ローマ字のつづりを理解しているかを見る設問の正答率が低く、依然として課題である。ICT活用の基礎となるキーボード入力には、ローマ字の理解が必要なため、ローマ字の習得と活用の場面を適切に設定することが求められる。
- 聞き取った内容に基づいて記述する設問の正答率が低かったことから、国語科だけでなく他教科でも、必要なことを記録しながら聞いたり、内容の要約を書かせたりする場面を意図的に設定する必要がある。

### 小学校算数

#### 【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
3	13 (2)	1時間=60分の関係を理解している。	68.8	58.4	10.4
4	16	余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明できる。	57.0	48.6	8.4
5	14	平行四辺形の作図ができる。	54.8	46.2	8.4

#### 【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
3	15 (2)	身近にあるもののかさを推測して、適切な単位を使うことができる。	48.7	46.9	1.8
4	4 (1)	1/8Lの8個分のかさが分かる。	45.1	48.0	-2.9
5	15 (2)	伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができる。	51.2	55.3	-4.1

- 日常生活に関わる知識を問う設問のうち、1時間=60分の関係を理解しているかを見る設問や、余りを切り上げて処理する設問の正答率が高かった。一方、身近なもののかさを表す単位を問う設問では、半数以上の児童が正答できず、かさの単位と量感が結び付いていないことが分かる。授業において、身の回りのかさの量感を体感的に知り、それを手がかりにおよそのかさの見当をつけたり、学んだことを日常生活に結び付けたりすることが求められる。
- 1/8Lの8個分のかさを問う設問に半数以上の児童が答えられなかったことから、分数の概念（意味）を理解していないことが分かる。分数を初めて学習する2年生において、具体物を使ったの操作活動を十分に行うことにより、分数で表す意味を理解させ、3年生において、分数の意味や表し方を習得させることが必要である。また、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問に課題が見られた。この設問は、中学校で学ぶ関数につながる学習内容であり、中学校でも課題が見られることから、系統性を意識して指導することが求められる。

## 中学校国語

### 【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
1	7	自分の考えの理由を書くことができる。	66.5	53.4	13.1
2	7	自分の考えを明確に書くことができる。	61.2	57.3	3.9

### 【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
1	3 (4)	敬語について理解している。	50.3	46.6	3.7
2	4 (3)	文章の構成や展開をとらえることができる。	49.0	47.6	1.4

- 条件に従って自分の考えを書く設問の正答率が高かったことから、定期テスト等で、条件作文を取り入れる取組が行われている成果が出ていると考えられる。国語科だけでなく、他教科でも記述式の設問を設定し、書く力をさらに育成したい。一方で、小学校と同様に無解答もあったため、授業では、語彙を増やすためにマッピング（発想シート）を行ったり、構想メモを書いて交流したりする時間を十分に確保し、適切に支援と評価を行いながら、生徒の書く意欲を高める指導を行うことが大切である。
- 全国学力・学習状況調査でも課題であった敬語の理解を問う設問で、半数近くの生徒が正しく答えることができなかったことから、学校では、日常生活や儀式的行事、職場体験学習等の場面を捉えて、丁寧で正しい言葉遣いを意識させることや、校内の言語環境を整えることが大切である。また、敬語や文法等の基礎的な知識及び技能の定着のためには、復習やドリル学習を効果的にすることも求められる。
- 説明文の構成や展開を捉えることができるかを見る設問では、段落の役割、内容を読み取る力に課題が見られた。授業では、生徒同士で各段落の要約やあらすじを紹介し合うなどの場面を設定し、生徒が読み取った内容をアウトプットする活動を行うことが大切である。また、教師は生徒の発言や記述を見取り、必要に応じて指導、支援することが必要である。

## 中学校数学

### 【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
1	17 (2)	2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。	69.8	59.4	10.4
2	1 (4)	1次式の減法ができる。	72.4	61.6	10.8
2	2 (2)	1次方程式を解くことができる。	76.4	64.3	12.1

### 【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
1	3	分数÷分数に関する文章題を解くための式をつくることができる。	21.7	24.7	-3.0
1	15 (1)	6:9と等しい比を選ぶことができる。	25.6	29.0	-3.4
2	7	関数について、理解している。	34.0	41.3	-7.3

- 1次式の減法や1次方程式のような基本的な計算力を問う設問では、正答率が全国を上回った。文字を用いた式の計算や方程式の反復練習で習熟が図られたり、補充学習等において個に応じた指導がなされたりしたことが、成果につながったと考えられる。
- 分数÷分数に関する文章題を解くための式をつくる設問では、正答率が低かった。除数と被除数を逆にしている生徒の割合が高く、文脈を捉えて正しく立式することができていない。また、6:9と等しい比を選ぶ設問では、「1/6:1/9」と解答している生徒の割合が高かったことから、比の相等（等しい比）の意味やそれを確かめる方法を理解できていないと考えられる。これらは、小学校で学習する内容であるが、中学校において、関連する単元の中で小学校の既習内容の定着を確認することが求められる。
- 関数について理解しているかを見る設問で、正答率が低かったことから、関数の意味を理解できていないと考えられる。関数の意味を理解するために、普段の授業で、小学校で学習した比例、反比例が関数の一例であることを押さえたり、身近な数量の関係の中に関数関係にあるものを確認したりするような活動を取り入れることが必要である。

## 中学校英語

### 【成果】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
2	6 (1) ①	語形・語法を理解することができる。 (疑問詞 when)	73.1	65.4	7.7
2	9 (4)	英文を正しい語順で書くことができる。 (Where を使った疑問文)	59.2	51.2	8.0

### 【課題】

学年	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
			県	全国	差
2	2 (3)	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。	56.3	60.9	-4.6
2	8 (2)	メールの内容を把握することができる。	51.6	48.6	3.0

- ・疑問詞を使った穴埋めや並び替えの設問は、正答率が全国を上回った。文法の定着を目的とした定型文の反復練習を行った成果と考えられる。定型文の理解に加え、疑問詞を使った他の文にも対応できるように、教科書本文の内容に関する質問を疑問詞を用いて作成し、答えを書かせたり口頭で答えさせたりするなど、普段から疑問詞を用いた疑問文に触れさせることが大切である。
- ・対話文の内容を聞き取り、適切に応答することができるかを見る設問に課題が見られた。対話文の音声を聞き取り、What time ~? の質問に対して、時間を解答することはできていたが、対話全体の内容を捉えることができていないことが原因と考えられることから、授業の中で、教師やALTが日常の出来事を話し、その概要を捉える取組を充実させることが効果的である。また、英語科だけでなく他教科でも、必要なことを記録しながら聞いたり、聞いた内容の要約を書かせたりする活動の充実が求められる。
- ・メールの内容を把握しているかを見る設問の正答率が約半数であった。メールの概要を理解しないまま、本文中の単語を手掛かりに解答したことが原因と考えられる。英語科だけでなく、国語科などの他教科でも読み物教材の概要を捉えさせる活動に取り組むことが大切である。

## 5 今後の取組

### 県教委の取組

#### 【管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問】

- ・県内（岡山市立を除く）の全ての公立小・中学校を訪問し、学校長が作成した「学校経営アクションプラン」を基に、学力向上をはじめ、学校が抱える課題の解決や特色ある学校づくりに向けた取組について管理職と面談、協議を行い、管理職のビジョンと戦略を支援する。
- ・授業参観を行い、今後の授業改善の方向性について指導・助言を行うとともに、改善の進捗状況を確認する。

#### 【授業改善の推進】

- ・「学力向上担当者通信」、「県外先進校レポート通信」を発行し、学力向上の推進に向けて、学校で取り組むべきポイントや他県の取組の良いところを紹介する。
- ・県内に配置している授業改革推進リーダー・推進員を中心に、授業改善に係る研究を深め、市町村教育委員会と連携した指導の充実を図る。

#### 【個に応じた指導の充実】

- ・「学力定着状況確認テスト」、「学習状況調査」を実施することで、各学校における児童生徒のつまずきや学習状況を把握できるようにする。
- ・個のつまずきに応じたプリントを作成できる「Web 評価支援システム」を学校に提供することで、積極的な活用を促す。
- ・放課後学習サポート事業により支援員を配置することで、各学校が放課後等に実施する補充的な学習指導を支援する。

#### 【望ましい学習習慣の形成】

- ・『家庭学習のスタンダード』、『家庭学習のスタンダード増補版』に基づいた、サイクル（C）とフィードバック（F）の取組の実践を支援する。
- ・今年度、義務教育課が作成し、教職員に配付している『授業改善と家庭学習で自律的学習者を育てる』の活用を進め、自分で計画を立てて学習する児童生徒の育成を支援する。

### 【授業改善の推進】

- 学力向上担当者を中心として、担任や教科担当が当該学年や教科における結果分析を実施することで、全教員が学校全体の分析状況を共有し、共通理解に基づき、つまずき解消に向けた取組を推進する。
- 『岡山型学習指導のスタンダード』に基づいた授業5の視点に加え、『岡山型学習指導のスタンダード増補版 授業改善、「一歩先へ！」』に示している、児童生徒が主役となる授業づくりと全体を見通した単元計画を行う視点を大切にして、授業改善を進める。
- 『増補版』の視点で作成した授業観察シートを効果的に活用し、さらなる授業改善を進める。

### 【個に応じた指導の充実】

- 「学力定着状況確認テスト」や小テスト等により児童生徒のつまずきを把握し、個に応じたプリントを用いたり、一人一台端末を活用したりしてつまずきの解消を図る。
- 放課後等を利用した補足的な学習指導を行い、学力の定着を図る。

### 【望ましい学習習慣の形成】

- 『家庭学習のスタンダード』、『家庭学習のスタンダード増補版』を活用し、授業と関連付けながら、短いサイクルで定着を図るサイクル（C）とフィードバック（F）の取組を実践するとともに、小学校と中学校の連携を進め、学習内容の定着と学習習慣の形成を図る。
- 『授業改善と家庭学習で自律的学習者を育てる』を活用し、児童生徒が自分で計画を立てて学習を進められるような家庭学習のあり方を工夫する。